

「里川」の認知とイメージ

Q. あなたは「里川」を知っていますか？

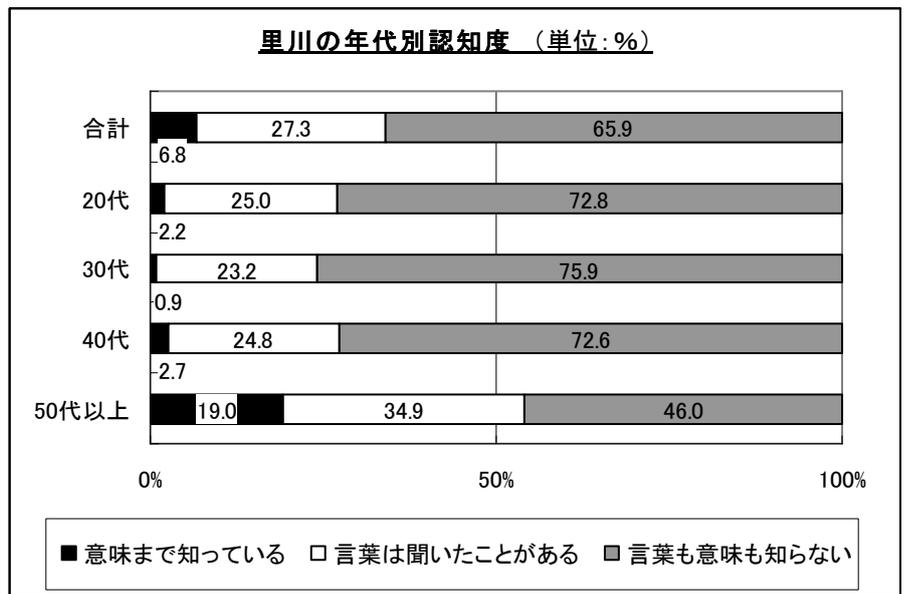
◇全体の約6割強が『「里川」を知らない』

◇世代別の認知率トップは50代以上（53.9%）で、19.0%が『言葉の意味まで知っている』

自然と人との共生の形として、数年前から「里山」に注目が集まり、全国各地で草の根運動的な「里山研究」「里山保全活動」が盛り上がっています。同様の趣旨で「水の文化センター」では4年前から人と川との関係をさぐる「里川（さとがわ）研究」を始めました。ミツカン水の文化センターでは「使いながら守る川」のことを「里川」と定義しています。

（※里川研究詳細は、ミツカン水の文化センターホームページ内にある『機関誌「水の文化」』より、15号 里川の構想 (http://www.mizu.gr.jp/kikanshi/mizu_15/index.html) を参照ください。）

最近、環境保護や生活文化の専門家の間でも関心もたれ始めた「里川」ですが、そんな「里川」の認知率を調べると、全体の65.9%が「里川」という言葉さえ知らないと答えました。意味まで知っていると答えたのは全体の6.8%にとどまり、まだまだ認知は低いようです。ただし50代以上の認知率は高く、半数以上の53.9%が認知（『言葉は聞いたことがある』と『言葉の意味まで知っている』の合計）していました。



Q. 「里川」のイメージは？

◇トップは「清らかな水が流れる川」と「生き物がたくさん棲んでいる川」

◇「里川」の条件は「きれいな水」と「親しみを感じられること」

認知率が著しく低い「里川」ですが、「里川」という言葉からどのような川をイメージするのでしょうか。トップは『清らかな水が流れている川』（57.8%）、以下『生き物がたくさん棲んでいる川』（53.3%）、『身近と感じられる川』（36.1%）、『思い出に残る川』（34.3%）、『その場にいると気持ちが癒される川』（34.1%）などとなりました。

